



2016年12月1日
No.114

「おことば通りになりますように」

お茶の水クリスチャン・センター常務理事 山崎 龍一

旧約聖書マラキ書からクリスマスまでの約400年間、預言者が現れず神のことばが語られなかったように思えた中間時代、主は世界史を通して御降誕の備えをされました。アレキサンダーの遠征によってギリシア語が公用語となり、ローマの支配によって通信網が整えられ、神殿を失ったため各地に律法を学ぶ会堂が建ち、偶像礼拝が途絶え、70人訳聖書が編纂(へんさん)され、ユダヤの民に対する圧政や困難の故に、救い主を待ち望む思いが募った時期でした。

待ち望まれた救い主の誕生は、人々の心を揺さぶりました。マリヤは身に起こったことに戸惑い、ヨセフはマリヤを内密に去らせようと心に定め、ヘロデ王は二歳以下の男の子を無差別に殺し、街は嘆き叫ぶ声にあふれたのです。神は、静かに幼子として降誕されましたが、人々にとっては戸惑い、恐れ、悲しみ、嘆きの出来事となりました。その渦中であって、御使いのことばと現実を「心に納めて、思いを巡らし」ていたヨセフとマリヤはエジプトに旅をし、ナザレへの転居を余儀なくされながら、幼子の命を守ったのでした。

幼子を身に宿しているときに聞いた御使いの祝福のことば。「おことば通りにこの身になりますように」と告白した、神を信じる両親の歩みによって、幼子の命は守られ、成長していきました。そして三十年の時を経て、「時が満ち、神の国は近くなった。」と主イエスのことばを通して福音宣教が始まるのです。神のことばは歴史を通して語られることを、中間時代の歴史は私たちに教えてくれます。また、心揺さぶられる悲しみにも関わらず、神を信じ従う人々によって幼子の命が守られ、十字架における愛に結実していきました。どのようなときにも主の声に耳を傾け、思いを巡らし、主のときを待ちつづける人々に、神は幼子の命を託してくださいました。

クリスマスは、神を信じる者たちの真摯な応答、そして主から託された使命に生きる人々によって、世界に静かな輝きをもたらす「始まり」となりました。十字架における犠牲という名の愛に生きるため、私たちは自分の人生に訪れる様々な出来事の只中であって、「おことば通りになりますように」と祈り、主のときを待ち、神と人に仕える人生に招かれていることを、クリスマスに思い巡らしてみませんか。

第6回日本伝道会議に参加して ～JCE6 レポート～

主事 鈴木喜香

9月27日(火)～30日(金)まで、神戸にて開催された第6回日本伝道会議に参加しました。「再生へのRe-Vision～福音・世界・可能性～」と題して開かれたこの会議には、国内外から2000名を越える教職者や団体リーダーが集まり、福音のすばらしさを見直し、宣教のビジョンを描きながら、互いに宣教協力を進めるためのとても良い機会となりました。

講演

英国よりクリストファー・J・H・ライト博士をお迎えしての講演は、テーマ「Re-Vision (見直し・改訂)」のとおり、聖書が語る福音、宣教の場としての世界、宣教協力の希望を見つめ直させていただけのものでした。

聖書が物語る福音は、天地創造から新天新地に至るもので、単に「天国への切符」なるものではなく、罪のゆるし、サタン・悪・死に対する勝利、敵対する者同士の和解、そして、キリストにおいてすべてがひとつに回復するという全宇宙規模のインパクトをもつものであると語られたことが印象に残っています。このことは、聖書を読む会にとって、大変意義深いことでした。この伝道会議の1ヶ月前に発売したばかりの手引「救いの基礎」では、まさにその福音が学べる内容になっているからです。「『救いの基礎』の出版が伝道会議に間に合ってよかった！ 私たちの手引を Re-Vision しておいてよかった！」と思いました。

ブースでの展示と手引頒布

会場のロビーでは、聖書を読む会の働きの紹介と手引の頒布をしました。今回の目玉商品は、何と言っても「救いの基礎」。他の手引は20冊前後なのに対し、「救いの基礎」は100冊持っていました。この信仰による決断(?)は、失

望に終わることがなく、「救いの基礎」は1冊も残らず完売しました。ライト博士の講演の内容に沿った学びが出来ることをアピールすると、手に取った方が次々と購入してくださいました。中には「あの人をリーダーにして、グループを作ろうか」とその場で相談をする方、「こういう手引を探していました」と喜んでくださる方もいて、とても励まされました。



【ブースでの様子】

分科会

分科会では、グループ聖研の体験に加えて、理事の先生方に講演もいただきました。福田崇理事は、「日本宣教と聖書」と題して、日本の教会が抱える課題（無牧の教会の増加、高齢化、子供や青年の減少など）にまどわされることなく、信仰者が信仰の歩みを真実にしていくためには、聖書との取り組みは欠かせない。手引を使ったグループ聖研は活用できると励ましてくださいました。水口功理事長は、「グループ聖研のすすめ」として、実際に教会でグループ聖研をどのように行っているか、またその意義と可能性を伝えてくださいました。60数名の参加者がいましたが、その多くが牧師・教職者であったため、どちらの講演も実用的な内容で好評でした。聖研体験は、6つのグループに分かれて「救いの基礎」の1課セクション1の学びをしました。発言も活発になされ、短い時間でしたが有意義な時となりました。

伝道会議の参加者は、日本宣教について真剣に考え、聖徒たちの成長を願う方ばかりでした。今回、初めて聖書を読む会の手引を手にした方も多くいました。我が子を送り出すような気持ちで手引を販売しましたが、各地でもたれる学びを通して、主が豊かに実を結ばせてくださるよう祈ります。



SYKだより

「救いの基礎」はもう、お手に取っていただけでしょうか？

予想以上の反響に驚いています。「舟の右側に網をおろしなさい」といわれて従った時の弟子たちの心境でしょうか。日本伝道会議での様子は2ページ目の報告の通りです。そこで、「救いの基礎」の紹介のために下記のような推薦文をいただきました。



「救いの基礎—聖書が語る世界」を読みながら、感謝しました。この手引が、私たちの「救いの完成」というテーマをはっきりと提示してくれているからです。そして、与えられた救いがいかに豊かなものであるのか、私たちに気づかせてくれます。先の見えづらい世の中であって、希望をもって歩むために、また与えられた信仰が、実際の生活の中で生きて働くものとなるために、大きな助けになる待望の手引です。

(飯能キリスト聖園教会牧師 聖書宣教会講師 若井和生)

「救いの基礎」は「キリスト教世界観」の全体像を踏まえて作られています。「救いの喜び」はもちろん、救われた後の「クリスチャンとして生きる喜び」の両方を持った、生き甲斐にあふれた道を教えてくれます。

(東京キリスト教学園 東京基督教大学理事長 廣瀬 薫)

私たちは、神様のお働きを物事のタイミングの中に見出すことがあります。このたびの「救いの基礎」の出版が、いろいろな意味で教会の必要に応えるタイミングであったということのうちに、主の働きを見る思いです。

8月以降、訪問させていただいた教会や神学校でのセミナーでは、「救いの基礎」を使っています。その際にも、このような視点を持った手引が求められていることを肌で感じることができました。一部をご紹介します。

- ことば遣い、読みやすさがいい。世界観として深いものがありとてもよいです。(牧師)
- 今まで、創造（の学び）は固いイメージでしたが、輝く景色にかわりました。(神学生)
- 信徒の方が伝道するための配慮がたくさん盛り込まれた手引です。(神学生)
- 質問が練られていて、求道者とも安心して使うことができる手引だと思います。(神学生)
- 創造から御業の完成までを視野に入れた伝道用の手引は新しいです！（40代女性）
- 伝道は、人をキリストの弟子として育てること。そのために、自分がまず弟子となって神様に従う生き方が求められているのですね。(牧師と聖研中のクリスチャン夫妻)



聖書宣教会でのセミナー風景



などなど、他にもたくさんの声が届いています。私たちが手引を作るうえでこだわったところや、伝えたいと願いつつ表現に苦労したところなどが、ちゃんと使い手に伝わっていることを実感し感謝しました。

教会・神学校を訪問しました

5月 生田丘の上キリスト教会(JECA)、6月 かもい聖書教会(JECA)、越谷福音自由教会(EFC)、7月 東京フリー・メソジスト小金井教会、10月 武蔵野泉教会(単立)、蓮田キリスト教会(JECA)、聖書宣教会で、聖書を読む会の紹介とアピールをさせていただきました。聖書宣教会といくつかの教会では聖研セミナーもしました。聖研を続けたい、始めたいという声も多く聞かれ、励まされました。

訪問させていただきる教会を募集中！

聖書を読む会では、訪問させていただく教会を募集しています。聖書を読む会の働きの紹介、また「せっかくなので、セミナーも……」というご相談も可能です。信徒訓練会、CS 教師研

修会などでいかがですか？

訪問させていただける教会がありましたら、ぜひ、メール、ファックス、電話(03-5577-4687 月、水、金)で事務所にご一報ください。

紹介・アピール 例

- ・聖書を読む会の紹介&アピール
礼拝後5分程度
 - ・聖研で受けた恵みの証
礼拝の中・他の集まりなどで10分程度
- セミナー例
- ・「救いの基礎」を使つての伝道聖研セミナー
 - ・グループ聖研セミナー
他の聖書を読む会手引を使つて
各1時間半程度